昭和39年度研究集録

特別教育活動における指導計画作成上の諸問題

昭和40年3月8日

東京都小学校特別教育活動研究会

研究集録によせて

会長　斉藤　敏夫

「小学校特別教育活動の指導計画はどのようにあることが望ましいか」これは本年度当初において決定された本会の研究課題である。この課題を解決するために、本会専門部門に学級会、児童会、クラブなどの研究部を設け、それぞれの研究部に各地区よりご推薦いただいた幹事の方々に分属していただき、それぞれの研究をすすめていただいた次第である。

それぞれの地区、それぞれの学校によっては、必ずしもこの活動を実施する上にあたって、障害となる問題が皆無とはいえない。これは、この領域の歴史的条件の宿命ともいえるであろう。幹事のみなさんは、これらの多岐にわたる諸問題の中から、共通的な・基礎的な問題を抽出し、この領域の目標から光をあて　本部の特別教育活動のすすむべき方向をうつし出すために多大な努力を重ねられてきた。幹事のみなさんはあるいは「本年は研究の緒についたばかりである」といわれるかもしれないが、遠路を重い資料を抱かえられ、夜おそくまで精力的に努力された姿に対して、心から感謝と敬意の念を捧げるとともに、各地区各学材において、この集録を利用されご批判くださることをお願いする次第である。

——もくじ——

研究集録によせて　会長　斉藤　敏夫　1

Ⅰ　話し合い活動における議題のとりあげ方 …… 2

Ⅱ　児童会活動の指導計画のあり方 …… 20

Ⅲ　クラブ活動の指導計画 …… 33

一年間の研究をふり返って …… 専門部長　奥田　勉　50

I　話し合い活動における議題のとりあげ方

議題が成立するまでの過程とその指導

学級会活動
研究グループ

1　研究主題設定の理由とその経過

学級会活動グループは、１０月の幹事会で、都特別教育活動研究会の本年度の研究主題である〝指導計画の作成〟について、グループとしての話し合いをもち、今後の研究方法や方向について検討した。その際に話し合われた内容は、

(1)　本年度内に〝指導計画の作成〟ができるかどうか。

(2)　〝指導計画の作成〟が　時日的に無理ならば、今年度の研究の内容をどうしぼるか。

の二点であった。　(1)の問題については、○　学級会活動の指導計画についてのわれわれの共通理解が不十分である。したがって、そのことについて何回かの会合をもって話し合い、ある程度の共通理解が必要であろう。　○　指導計画作成にあたっての時間が足りない。学級会活動全般についての指導計画作成は、月１～２回の会合ではとても不可能である。ということになり、本年度は指導計画作成上の基本的な問題について研究していくことになった。そこで(2)　の問題について話し合われたわけである。その際に研究をすすめていく基本的な態度として、○　現場からかけはなれない。○　気軽に活用できるもの、実際に使えるもの。○　学級会活動のねらいを明らかにする。○　先ばしらない。などがあげられた。

結局本年度は、〝指導計画作成上の根本的な問題点をあらう〟ということで話がすすめられたのであるが、その時の話題にのぼった内容は

(イ)　〝議題〟をどう考え　どうおさえるか。

(ロ)　問題発見や問題解決の意識をどういう手だてでどう育てるか。

(ハ)　集められた議題をどう整理し、どう提示したらよいか。

(ニ)　実施計画はどういう組織でどうたてるのが望ましいか。

(ホ)　話し合いの技術や、司会、記録のあり方は、どう指導したら効果的か。

などいくつかの問題が提出された。結論的にいうと、〝議題が成立するまでの過程とその指導〟の問題にしぼることになった。

現在〝議題〟については、ある程度の概念規定ができているように思われる。何年か前の段階では、望ましい議題についての見方、考え方が混乱しており、そのことが学級会活動の深まりやひろまりを阻害していたのではなかろうか。即ち、生活指導的議題、管理的議題、安全指

導的議題等々、整理されずに話し合いの場に持ちこまれ、児童の自発的、自治的活動という名において解決させていこうとされたのである。このことがさまざまな問題を生み、一方では放任的な学級会になり、一方では自主性が全く失われた、教師の下請け的学級会活動に陥ってしまう結果となった。このような観点から、本年度は、〝議題〟という問題に焦点をあわせて研究をすすめていくことにした。

2. 研究の柱 ―― どんな内容で研究が進められたか ――

学級会活動における話し合い活動の時間に、議題として提出される問題は、どんな経過をへて出てきたであろうか。またその過程にどんな問題があり、どんな指導があるだろうか。

学級生活
- 学級経営がどのような観点で行なわれているか。
- 問題発見の意識を育てる手だてはどう指導されているか。
- 個人指導とグループ指導・教師の指導記録。
- 係り活動の推進と評価。
- 所属意識、仕事意識、役割意識の指導はどうおさえられているか。

問題集め
- 問題集めがいつもくふうされ、意欲的に問題を提出するための手だて。
- 問題発見の視点や角度を明確に指示し、学年の発達に応じた身のまわりから ひいては学校全生活に目を向ける指導。
- 問題を集める手だて。そのいろいろ

問題の整理
- 集められた問題を区分けする。
- 望ましい議題 とはどんな議題か。
- 議題にならない問題の処理の仕方。
- 実施計画はどのようにたてるか。

議題の提示
- 議題の決定の仕方や手順を正確にとおる。
- 決定された議題について学級全員が理解し、問題点の原因、条件、解決の見通しがたてられるよう指導する。
- 提案する時の準備

以上のような指導の経過をへて、学級話し合い活動の場に、〝議題〟が提出されてくるのである。この観点から研究の柱を次の三つにしぼり 研究をすすめてきた。

(1) 議題が出てくる場をどうおさえるか。

児童は身のまわりや学級生活において、さまざまな問題があるにもかかわらず、教師の段

階的な指導が加えられないと、問題を発見することはなかなか困難のようである。かりに一日の生活の流れをみても、そこにはいろいろな場面がある。われわれは手をこまねいて問題の出てくるのを待っているわけにはいかない。学級生活の中で、どんな場で、どんな指導によりどんな問題が出てくるかについて、できるだけの計画をたてる必要がある。今年度は場面をしぼって① 朝の相談の時間、帰りの反省の時間、をどう指導するか。

② 係り活動をすすめていく上で どんな議題があるだろうか。

③ 教師の記録、からどんな議題が出てくるか。この三点について各自の研究を持ちより検討された。これらの検討は十分に分析や考察されたとはいえない段階である。

(2) 望ましい議題 とはどうおさえるか。

学級会活動を教育課程の全体構造の中でどのような位置づけをして、どのようにねらいをおさえるかについては、明確に把握しておく必要があることは論をまたない。そのことについての一般的な論理づけは、指導要領や指導書などによってもおさえることができる。しかし具体的、実際的には各学校において、それぞれの特性をいかした性格づけをして、更に全職員が共通理解を深めておくことは重要な問題である。このような共通理解のないところに、議題に対する、見方、考え方の混乱があり、学級会活動の阻害条件ともなっている。

以上の観点から、〝望ましい議題〟はどういう問題であるか。具体的に比較しながら論をすすめ結論的に、議題はこういう問題を取り上げるのが望ましいと思われる点を研究した。

(3) 議題の整理と提示は どう指導したらよいか。

学級生活に対する問題発見や問題解決への意識が高まり、生活を改善していく上での問題がよりよい方法で集められると、種々の問題をどう整理しどう処理していくかが大事な問題になってくる。その学級その学級での切実な問題が、公式論ではなく具体的な現実的窓を通して整理されるような指導がなされていく。たとえばプログラム委員会でどんな角度から、どんな方法で出て来た問題が整理され、課題案として学級全員に提示し、議題が決定されていくかなどがある。このことが学級会活動を深めていく一つの重要な鍵にもなるわけである。以上のような理由で、整理と提示の段階を一つの柱として研究をすすめてきた。

以上研究主題の設定理由とその経過のあらましについて述べてきたが、いかにも時間的な余有がなく 極めて荒けずりな研究であったように思う。今年度は〝指導計画作成〟への足がかりとして、基本的な問題の一端を掘り返えしてみたのにとどまらないが、来年度においては、この研究成果を足場にして、より望ましい指導計画の作成にとり組んでいきたいと考えている。〝議題〟についての研究を進め、究明していくことが指導計画の作成の前提として重要な基本問題であるという観点にたっている。以下三つの柱について述べることにする。

3, 議題発生の場と指導上の問題点

――― 相談の時間や反省の時間を中心に ―――

ア．どんな場面があるか

児童は、学校生活、学級生活を営むうえで、その生活の中からさまざまな問題を発見し、学級の問題として整理し、深まりのある話し合いによって問題解決の方法を計画し分担しながら実践活動を展開していく。学級生活を楽しく、常に生活を向上発展させるべく志向する場合に　生活につながる問題が　どのような場面から多く発生するであろうか。われわれはこの場面を意図的、計画的におさえておくことが必要である。

＜生活時程から＞

① 朝（始業前）

・登校　・遊び　・日直の活動　・教師の活動

② 学習時

・朝会　・朝の相談　・帰りの反省　・教科、道徳の学習　・学校行事活動　・係り活動

③ 休み時

・日直の活動　・係りの活動　・生活指導の場　・遊び

④ 給食時、および昼休み時

・給食指導の場　・係り活動　・日直の活動

⑤ 放課後

・清掃活動　・日直の活動　・係りの活動　・遊び　・下校

まだまだ多くの場面が設定されよう

ここでは、特に朝の相談の時間、帰りの反省の時間について考えてみることにする。

イ．朝の相談の時間、帰りの反省の時間

学級会活動は　いうまでもなく、話し合われたことが、実践に結びつかなければ　その意義を失なう。実践に結びつくためには　話し合われる内容が具体的であり、直接的な問題でなければならない。

学級内にどんな問題があるかという　つまり学級内における問題を発見する意義が育つような場面の設定や指導がなされていなければ問題は出てこない。

このように問題を発見し、問題を解決しようという意識を育てる場面のひとつとして有意議に活用できるのは、朝の相談、帰りの反省の時間であろう。

① 朝の相談の時間（時間１０分）

（五分）

・校内放送　（生活指導問題や　部からの連絡　校内放送計画による放送）

この中から学級の問題として取りあげられ、議題になることもある。聞き方の指導の必要もある。

〔例〕

・そうじ分担の再編成　・学級ボールの管理　・遊び場の問題　・学校図書の利用法

・代表委員会の議題や話し合いの内容から出てくる問題等々

（五分）

・本日の学習予定や連絡事項　（教師から）

・日直や係りから

〔例〕

日直が活動していくうえから、学級日記の記録をとおして発見された問題

・忘れ物　・整理整頓　・そうじの仕方、あとしまつ　・あいさつ　・係りの活動状況

・休み時間の遊び等々

係りの活動をすすめていくうえから発見された問題や連絡

〔例〕

・係りの中で　当番にあたった者からの連絡や注意　・学級会の問題

・週の目標や、活動についてのお願い　等々

朝の相談は、短時間なので、ふだんから計画的に要領よく進められないと効果があがらない。毎日このようなすすめた方がなされるわけではないが、教師も児童も明確にこの時間のもち方を理解して運営されなければならない。

② 帰りの反省の時間　（時間１０分）

（四分）

・１日の反省（１日の生活からおこった問題について　気のついたものが、生活グループの話し合いによってグループから問題提起する）

〔例〕

・学級のきまり、学校のきまりが守られていない点

・生活改善のためのいろいろな方策　・人間関係についての問題点

（三分）

・係りから　（係り活動をすゝめるうえからの問題点）

〔例〕

・係りからの連絡　・係りの計画発表　・おこった問題についての処理解決方法

（三分）

・教師から

〔例〕

・明日の学習予定　・家庭への連絡　・宿願　・生活指導上の問題点　・生活向上へのはげまし、留意点

これは、朝と帰りの時間の使い方についての一例であるが、このような指導の計画も教師がおさえておく基本的な内容である。なお、いつものように流れるとは限らない生活班の話し合い　係り会等も、週のスケジュールの中におりまぜるなど　１０分間の活用はいろいろくふうできよう。

要するに　朝の相談や帰りの反省の時間を指導していくうえでの基本的な観点は、

A、生活の中でどんな問題があるかを意識させ　問題を発見させる。

B、発見された問題を　学級集団の場で解決するような意識を育て　問題解決のための方向づけをする。

C、所属意識、仕事意識、役割りの意識がのばされるように留意する。

D、活動の結果よりも　なお　過程を大事にするよう留意する。

E、問題把握から、条件の分析、解決の見通しという思考の過程を指導する。

F、学級会活動を育てる視点から、学級会活動が活発になるような問題も話し合われるような指導助言をする。

以上の観点は、何も朝の相談や　帰りの反省の時間の指導における観点というだけではなく、常に学級経営の上からも　教師として配慮すべきことではなかろうか。

イ・問題意識を育てる

われわれはよく、学級会活動の問題として　議題の問題、話し合いのさせ方、議長や記録などということを問題にしがちである。しかし、このことは結局は形式的な技術の問題であろう。どんな問題が、どんな原因で、どのような形で存在しているかという問題発見の意識が先行しないと　ほんとうに児童のための　そして正しく自主性、自発性を伸ばすための　深まりのある学級会は育たない。例えば　議題の問題として　いくつかの議題として成立する条件的な基準を定めてみたところで、幾多の問題がはみ出てくるのはわれわれの現実の学級の姿であろう。

このように　形式的技術的にとらわれることなし、学級における生活向上や改善の問題をみんなが意識しはじめ、その意識が高まってくることによって、議題とか　話し合いのし方、実践的な決め方、実践など、自らできあがるのではないだろうか。低学年の段階から計画的にその指導が進められてこそ、望ましい学級会活動がすすめられると思う。

事　例　（学級経営の日誌から）

『朝の相談の時間』　1月18日（月）

① 校内放送　（要点）

• 運動部から

. 下水工事のために運動場に砂じゃりが積んである。その上にのぼらないように

. 学年別、学級対抗の球技大会の日程発表（６年は1月２３日）

※1組の出場班の編成をする

• 整美部から

本日、各教室に清掃用ホーキ２本ずつ配ります

※掃除道具のあと始末、道具表の点検

∘ 保健部から

. かぜがはやっているので　マスクやうがいの励行

（※印は生活指導や、学級の問題として取りあげたいこと）

② 学習予定　教師から

∘ 国　語　〝ひとりひとりの人間〟の才三段落から段落しらべ

• 算　数　P81　問題のとき方　Xの使い方

• 社　会　交通々信の発達　グループ研究のまとめ　図表つくり

• 道　徳　〝将来の希望〟作文による話し合い

∘ 体　育　ポートボール練習、班別の練習試合

• 音　楽　専　科

③ 日直や係りから

• 日直から

. 机の中に必要のない学用品や紙くずが残っている

. 学級図書のあとしまつがよくできていない

. ガラス窓が一ケ所レールがおかれたので開けないように

• 係りから

. 書初め展の書写をきょうかえします

. 岩田君がドッヂボールをもってきたので、みんな大事に使うように（学級委員）

. 学級図書をかえす時の注意……図書係り

『帰りの反省の時間』

① 連　絡

∘明日の予定　　教師から

・時間割……算、社、社、国、学級会、書写

学級会については、土曜日に発表した課題について再確認

①各係りの仕事内容について……発表と相談

②室内オリンピックゲームの種目を決定する

・宿　題　社会科　整理と応用　P102〜105

∘係りから

・大島の火事見舞金を20日までに出す……学級委員

・あしたのニュース記事当番は6班です……新聞係

・先生　色模造紙がなくなりましたから買ってもらいたい……掲示係

∘エプロンはきちんとたたんでから袋に入れるように……給食係

② 反　省

∘音楽の時間にやたらに笛をふく人がいて先生の話がよくきこえなかった。——平田

∘ボートボールの試合の班を早くきめてもらいたい　——野口

∘給食の当番は　こぼしたミルクをちゃんとふいてもらいたい　——佐藤

∘体育館の中で遊んでいる人がいた　——高橋

∘チューリップのかわいいめが、ボールがはいっておれていた　——水上

∘先生　知世子ちゃんが三日も休んでいるけど　どうしたんですか　——岩田

③ 教師から　1日の反省と注意

∘きょうの学習のあらましについて

∘反省会に出た問題についての指導

4. 特活の活動の中から

ア、係り活動から

係り活動は、学級の仕事を分担し、処理する活動であるから

① 児童が自発的・自治的に解決するもの

② 学級生活に直接つながっているもの

などの　議題として望ましい条件にあてはまったものが多く出てくる場の一つである。

∘議題になるものとして

1、新しい係りを設ける時

学級全員による反省　・係りからの連絡　・係りからのよう望　に関するもの

新しい係りはどうしたらよいか。

2、分担の時

係り内容の理解　・係りと人数　・分担　に関するもの

3、改廃の時

交代以前の中間時においての話し合いは当然考えられてよい。

いらない係り　・統合してよい係り　・くふうして改良すべき係り　に関するもの

4、計画の時

各係りごと　・全体で

どんなこと　・係長　・記録の方法　・活動の方法　に関するもの

5、反省の時

係りごと　・全体で　中間や交代期の時に必要である。

実践活動の反省　・次番者への引きつぎ　に関するもの

6、その他

①係り活動とは何であるかという性格について、話し合いの随時で実践活動をおさえての指導助言は必要である。

②意欲をもりたてるため　・創意くふうをさせるため・の方法を係りごとや全体で話題としてできるように投げかけ、前記の議題まで発展させていく配慮・助言も必要であろう。

イ、集会の活動から

①　学級集会から

他の学級会活動に比べて　この活動は児童が興味と関心を非常によせており、学級になごやかなふんい気を作り、学級活動の活発化をはかる基盤を作るものといえる。したがってその結果やできばえよりも、児童が自主的に計画し、運営していく過程に価値がある。

そのような活発化をはかれる話し合いの議題として　次のものが考えられる。

1、たんじょう会

運営方法　・係り分担　・限られた時間で終了するためには　・に関するもの

2、子ども会

催し物　・実施方法　・係り分担　・ゲームのやり方と実施について

3、研究発表会

準備について　・実施方法　・係り分担　・質疑応答について

4、クラス会

実施方法　・係り分担　・について

② 学年集会から

1、学年の共通問題から

遊びの問題　・遊び場の利用　・に関するもの など

2、スポーツ大会（行事等）から

実施方法　・参加応援　・反省　に関するもの

これはかなりの指導と助言　・時や場所の問題などが含まれてくる

ウ、代表委員会から

1、遊びの場から

なかまにいれてくれない　・など

2、給食の場面から

放送をよくきかない　・手洗いの使い方　・など

3、清掃の場から

早くおわらない　・男女協力がうまくいかない　・など

5、教師の記録の中から

学級会の議題というものは、児童自身で見つけ出し、みんなで話し合って解決されるものであることが望ましい。しかし教師が毎日の児童の生活を観察するとき、そこには、いろいろな問題がおきているものである。生活指導的な面において、また、学習指導的な面において、さらに、学級会、児童会において解決しておしいものなど、さまざまなことがらに直通する。

これらの問題は、いろいろな方法で記録されているわけであるが、例えば

ア、一日の生活の流れを追って記録したもの。

・登校時　・朝礼　・学習前　・学習中　・学習後　・休み時間　・特別教室への移動

・給食前　・給食中　・給食後　・午後の学習　・清掃　・一日の反省　・放課後
・下校時　など。

イ、学習活動の時におきる問題を記録したもの

ウ、あそびの時におきる問題を記録したもの

エ、朝の相談、清掃、一日の反省などの時におきる問題を記録したもの

オ、学級会活動　児童会活動の記録

などが考えられるが、この中より、さらに

- 学級会をそだてるための記録
- 生活指導のための記録
- 係り活動の記録
- 児童のことばよりの記録
- 実施計画をもとにした記録

このような方法も考えられる。ただ「ア」の一日の生活の流れを追って記録したものの中には、個別指導の問題、指導技術の問題、安全教育の問題ではないかと思われるものもある。しかし、生活指導的な場面でも、自主的活動はできるので、内容によっては、自主的方向に位置づけられることもある。

したがって　その場合　その中から議題としてとりあげやすいものは何か、ということを考慮しなければならないと思う。

このようにして考えると　学級の状態によって異なってくるが、いろいろな場によって、議題がとり上げられるのではなかろうか。しかしながら　児童が　自分の学級の問題を、自分たちで積極的に解決しようとするための議題は、係り活動の時にその発生がもっとも多くみられるようである。

したがって　教師の助言と指導をスムーズに行い、それを自主的方向に位置づけるためにも、積極的である係り活動の時の問題が、適切ではないかと思われる。

- 係り活動の種類
  - ・図書係り　・保健係り　・修理係り　・会計係り　・給食係り　・掲示係り
  - ・調査係り　・整理美化係り
- 教師の記録より
  - ・係りの種類は　これでよいか。必要なものができたり、不必要なものがありはしないか。
  - ・日直と整理美化係りの仕事がはっきりしているか。

・修理係り用具の同じものを何度も買っているが、どうしたのか。

（だれかが　だまって使っているようす）

その他　児童が提出する議題と一致するものがいくつかあった。

いずれにしても、児童が自分たちで議題を提出し、自分たちで処理できるためには、それなりの指導がなされていなければならない。

度々いわれていることであるが、低学年のころより、計画的にこのようなことが、十分考慮に入れられなければならないのではないか。

6, 問題の整理

(1) 問題を整理する。

児童から提出された問題はどんなものでも一応話し合って　これを整理するのであるが、その整理の場として、プログラム委員会（運営委員会）が　これに当たる。

ア、プログラム委員会の構成メンバーは、一般に各係りの係長、書記、学級委員等から組織されることが望ましい。

イ、プログラム委員会は、放課後、休み時間、給食時前、等の時間を利用して開くようにする

ウ、教師はプログラム委員会の活動を活発にするための環境整備に努める。（必要な消耗品備品など）

オ、プログラム委員会は、普通3年の後半ぐらいから教師の指導助言にささえられながら活動することができる。

カ、児童から出された問題で、学級会にふさわしくないものでも、なっとくさせて処理し、問題の発見意欲を失なうことのないようにする。

キ、集まった問題（議題集）の整理や分類を児童たちの手で、積極的にできるようにさせる。

ク、議題案の分類整理の助言をする。（議題の分類係り、集会、きまり、児童会、学級会の運営）

ケ、教師はプログラム委員会が活動しやすいように、時間や場の設定をしてやる。

コ、議題（議題案）をえらぶ場合は、問題の重要性、緊急性、議題の条件等を考慮することが大切である。

サ、整理された議題案をできるだけはやく全児童に知らせ、どれを議題にするか、積極的に考えるように教師は指導助言する。

シ、議題案を出した児童は、その提出理由がはっきり言えるように助言する。

ス、議題案としてつぎのような問題が提出されたときは、教師はそれぞれの問題に対して納得させてから議題案からはずすようにする。

①夏休みの生活、学習の態度等に関する問題は教科、生活指導などに於て取り扱うことが望ましい。

②えんそくの注意、運動会の見方等に関する問題は、学校行事の事前指導に於て取り扱うことが望ましい。

③掃除当番をきれいにはやくするやり方、給食をくばるやり方等に関する問題は当番活動の分野に於て指導することが望ましい。

④教室の○○の修理をしてもらいたいなどは学校学級の管理運営に関することで、教師が当然行なわなければならないこととして整理する。

(2) 議題の選定と確認

プログラム委員会で整理された議題案の中から、議題をえらぶことになるが、このときも議題の望ましい条件、重要性、緊急性等を考慮して、教師の助言を得ながら児童の話し合いによって　選定させる。

議題が選定されたら　プログラム委員会で実施計画を作成することになるが、中学年では、かなり教師の指導助言が必要になってくる。実施計画作成は学級会の話し合いを進めていく上に重要な活動である。

議題が選定され、実施計画が立てられたら、これをプログラム委員会（議題係）の手によって全児童にはかり、話し合いして、議題と実施計画の確認をする。そして次の学級会で話し合う大切な点をみんなに予告し、意見を考えておくようにすることは、話し合いを深めていくのにたいへん役立つものである。

ア、議題の選定

①プログラム委員会でとり上げられた議題案を全員にはかり、このほかに緊急な問題はないか、ふさわしい問題はないか話し合って、議題を決定する。

②議題の問題点を整理し、学級会の議題として前日までに学級の全児童に予告する。

③議題を前もって知ることによって、児童が問題を把握し、意見を考えたりして、関心が高まり、話し合いが活発になるのである。

④議題選定のときつぎのことに留意する。

- 学級生活をたのしく、より向上させるために必要なものであること。

• 児童が学級生活で解決の必要に迫られているもの。

• 学級の共同の問題で、みんなで協力して解決すべきもの。

• 児童の発達段階に即した問題で児童が実践の見通しのあること。

⑤決まった議題を板書したり、紙に書いたりして提示する。

⑥議題名はできるだけ　児童のことばで具体的に表現するように助言する。

⑦議題はできるだけ全員で話し合って決めるようにすることが望ましい。

⑧議題の決め方を児童の手でくふうさせ、その活動を通して、話し合いへの意欲が高まるように努める。

⑨議題として、とり上げられなかった議題案の処理をていねいに扱い、できるだけ児童の手で処理していくようにしむける。

⑩議題は学級全体から考えて、緊急で解決の必要にせまられている価値のあるものを取り上げるように助言する

⑪議題が決定したら学級会でどんなことを言うつもりかたずねて、話し合いへの参加の準備をさせる。（朝や帰りの話し合いや、遊びなどを通して問いかけて、意識をたかめる）

(3)　実施計画とその確認

①決定した議題案をもとにして、プログラム委員会（運営委員会）で実施計画を作成する。

②実施計画作成は学級会の話し合い活動の事前指導として重視される。

③教師はプログラム委員会にできる限り出席して指導助言する。

④実施計画に便利な記録用紙を教師は準備してやる。

⑤実施計画作成には議長、副議長、記録、各係の代表、提出者などが、これに当たり、教師の助言を得ながら計画や事務の処理に当たるようにする。

⑥実施計画は、議題、提出者、司会者、記録者、話し合いのめあて、話し合いの順序、問題解決の見とおしなどを立て、話し合いを深めるための資料の準備をする。

⑦実施計画の話し合いの進め方は、大まかな作成でよいのではないか。

⑧なるべく時間の見通しを立てて　作成するようにする。

⑨教師はプログラム委員会が活動しやすいように、時間や材料等の助言をしてやる。

⑩プログラム委員会で作られた実施計画を児童の手で一般児童に確認させる。

⑪実施計画の日時、議題、問題点などを予告し、つぎの学級会までに意見を考えておくように、朝の話し合いや帰りの話し合いの時間を活用する。

⑫問題（議題）提出者には、その提出理由の説明がはっきりのべられるように助言してやる

⑬提出者は　具体的な実践方法、資料の準備と提示などもできるようにしむける。

⑭実施計画の確認は、学級会の前日、前々日ぐらいに行なわれるのが望ましい。

⑮この委員会は、教師が指示したり、命令して作るのではなく、児童の手でその活動を通して、児童自身の必要感にもとづいて作るようにすることが望ましい。

7, 整　理　の　場

(1) 望ましい議題

特別教育活動の学級会活動を支え、育てていくものは話し合いの活動といわれる。この重要な話し合いの活動を、より特別教育活動として位置づけるものはここで話し合われる議題であろう。この議題が学級会のねらいから考えて、学級会の時間に話し合った方が効果的か　それとも学級会以外の教育の場で取り上げた方が効果的であるかどうか、この問題を解決するのが「望ましい議題」の項である。

ここに別表としてある学校の「学級会議題一覧表」を取り上げてみた。

＜ 別 表 ＞ 学級会議題一覧表　（昭和３７年度）

月＼学級	５　年　１　組	５　年　２　組
4月 5月	・あそびについて　・当番について ・体育について　・給食を早くくばってもらう	・係りをきめる　・係りの仕事について ・学級会のやり方　・たん生会について
6月	・小運動会について　・室内のあそび ・勉強中のいたずら　・給食について	・係りからの註文　・小運動会のかかり ・雨の日のあそびについて
7月	・夏休みについて　・友だちのこと ・給食を上手にするには　・給食について	・学級おたのしみ会 ・学級たのしみ会の係
9月	・学級会の時、話や　あそんでいる人がいる ・給食のあとかたづけ	・新聞の名をきめてもらいたい ・係りの仕事について
１０月	・行儀について　・日直の仕事 ・当番のこと	・１組の試合の申込みについて ・野球の準備
１１月	・当番のこと　・あそび方 ・学級会のこと　・給食の時係りはどうしているか	・バトミントンの使い方　・学級たのしみ会 ・係りから
１２月	・当番の点のつけ方　・当番のやり方 ・冬休みのあそび方	・係りから　・係りの人数 ・学級たのしみ会の係り　・たのしみ会
1月	・給食のこと　・当番のやり方と反省	・係りの交代
2月	・当番の事　・クラブ発表会	・係長会議の意見　・校庭をきれいに ・転校生の手紙
3月		・転校生に手紙をかく人　・6年生をおくる会 ・学級おわかれ会

ア、議題例の分析

この表で気づくことは、一組と二組との議題にちがいのあることである。これをそれぞれ頻度の多い議題から上げてみると、一組では

① 当番に関する議題　11回　② 生活指導（しつけ）に関する議題　5回

③ 行事に関する議題　5回

となっている。これに対して二週は

① 係りの活動に関する議題　10回　② たのしみ会に関する議題　8回

となっている。この議題のちがいは、学級会に対する考え方、すなわち学級会はなにを話し合う時間かという考え方のちがいからきていると考える。以下各組の議題を学級会活動の性格から考えてみたい。

① 当番活動は自発的、自治的活動か。（当番活動は特別教育活動の領域か）

現在当番として活動しているものには三つの性格があると思う。すなわち　A、係り活動の輪番としての当番。B、学習活動としての当番。C、学級経営に協力する活動としての当番。結論からいうと、Aは特活、Bは各教科指導の一環として、Cは活動内容によって特活にもなり得るものと考えている。一番問題があるCを中心にして考えてみたい。学級経営は性格からいえば教師の責任であり、全部教師が行うべき仕事であろう。しかし現実には当番を作って教師の手伝いとして「あれもやれ、これもやれ」と命令された仕事をやり、特活の「自発的　自治的活動」とはちがう性格のものである。では学級生活には当番活動だけで係り活動を行う余地がないのではないか。そこで教師は学校経営の仕事の中、比較的自発的、自治的活動の余地のあるものを係り活動にし、その余地のないものを当番活動にますように計画すべきであると考えられる。当番活動も係り活動も同じ学級経営の仕事であるが、このように計画した場合には、係り活動は学級会の領域に入れ、当番活動は、教師が行う学級経営への協力、参加ということで、学級会以外の時間に行うべきではないかと考える。

② 「生活指導」は特別教育活動か。

生活指導は児童の生活を対象とし、全教育活動において行うべきである。このことから学級会活動においても当然生活指導はなされるものと思う。しかしこのことは生活指導的な議題が出されて話し合ってもよいということを意味していない。たとえば「行儀について」「勉強中のいたずら」という議題がある。この結論は出ており、実行されない原因は児童の生活環境（家庭生活も含めて）の問題である。これを児童の自発的、自治的活動によって解決できるであろうか。

③ 学校行事等の指導には　事前指導がある。

学校行事等に関する問題が、児童からの自発的な問題として学級会に提出されることはあり得る。しかし教師が学校行事等の事前指導を計画的に行なった場合には、その数は非常に少くなるであろう。議題例として出ている「夏休み・冬休み」の問題は、当然「休業中の生活指導」として担任が行うべきである。指導がなされた上で問題が出てきたとしても、それは休業中、しかも校外生活に関する問題である。これは学級会以外の教育活動の場において取り上げた方がよいと考える。

イ・望ましい議題とはいかなるものか。

今までわれわれの学級会の話し合いは、「児童の自発的・自治的活動」ということで、なんでも学級会で話し合っていたきらいがあったように思う。児童の自発的・自治的活動を育てることは全教育活動の場において行うべきことである。特別教育活動はその中核となるもので、時間数が少ないだけに精選して自発的・自治的活動の育ちやすい活動のみを与え、実践活動を通して養うべきものと考える。このためには特別教育活動として取り上げる範囲を明確にすべきであろう。しかしこの考えで、「この議題は行事の事前指導の時間として取り扱うべきだ」「この問題は生活指導として学級会以外の時間に行うべきだ」と整理すると、一組の議題例では学級会で話し合うべき議題が少なくなってしまう。従って議題の整理を行うと同時に、学級会にふさわしい議題が出てくるように指導する必要があろう。

われわれは前項「議題の出てくる場」において、学級会にふさわしい議題の出てくる場のいくつかを押えた。この場の大部分は「係りの活動」に関する場である。ここで二組の議題例について考えてみたい。二組の議題は「係りの活動に関するもの」と「たのしみ会に関するもの」とが多い。この「たのしみ会」を実際に指導してみると、この集会を行うことによって係りの活動が刺戟されることがわかった。このように考えると「望ましい議題」の指導とは、係りの活動を中心とした実践活動によって問題意識を育て、さらにこの問題意識によって学級生活をながめ、その向上発展のための問題を発見していくように刺戟することではなかろうか。

ウ、ま と め

われわれは「学級会活動の議題はいかにあるべきか」という研究主題によって話し合ってきた。この研究の結論は

① 特別教育活動として取り上げる範囲を明確にすること。

② 「望ましい議題」を育てるための指導を適切にすること。

の二点であった。この二点はいずれも「特別教育活動の指導計画」に関するものではなかろうか。すなわち「特活として取り上げる範囲を明確にする」ことは、特活の位置づけであって、指導計画のうち「全般の計画」の作成過程で、その学校の実態にあった特活のねらいを全職員で話し合う過程において養われるものと考える。

②の項については以前はつぎのような考え方があった。すなわち　学級会活動の指導は難しい。このために「このような議題が学級会にふさわしい議題である」「この議題で話し合えば学級会は成功する」という「望ましい議題」を研究すれば学級会の指導ができる考えである。大切なことは「児童の自発的・自治的活動」を育てるものとして議題があるということであろう。とすれば、

- このような議題が出てくる場が、毎日の教育活動のどこにあるか。
- この場の中から、児童が議題にふさわしい問題を発見するためにどのように指導したらよいか。
- 児童が発見した問題を学級会の議題としてどのように吸い上げたらよいか。
- 吸い上げられた議題を学級会の話し合いの活動にのせるまで、児童の自治的活動としてどのような手続きを経たらよいか。
- 議題を児童の自発的、自治的な話し合いとして進めさせるにはどのようにしたらよいか。また実践活動に移すにはどのようにしたらよいか。

等のことが考えられる。以上のことを児童の発達段階に即して考えなければ正しい「望ましい議題」を学級会活動に取り入れたことにはならないと思う。そしてこれらのことを整理したものが「学級会活動の指導計画」になるのではないかと考える。

Ⅱ　児童会活動の指導計画のあり方

児童会活動
研究グループ

○研究の経過

今日の特別教育活動において　最も問題を多く含んでいると考えられるものの一つに、児童会活動がある。すなわち、児童会活動の指導計画の作成にあたり、どの学校にも共通する問題として当面するものに、学校管理と児童の自発的・自治的活動との関係がある。いわば　児童の学校管理に対する補助的活動という点でなやみがある。また一方では　児童の全校的な視野をもとにして展開されなければならないとする。活動自体に無理があり、ともすると　形式的で無気力な活動となっているという問題である。そこで、これらの実態の中から

① 指導計画の在り方を再検討すること。

② 児童会活動をとりまく諸問題を究明して、指導の姿勢を正しくする。

という２点に整理して　研究を深めることにした。

これらの研究において、まず第一に検討したことは、「特別教育活動の全体計画」をどうおさえるかということであった。しかし、考えてみれば　「児童会研究部」だけで考える問題ではないということで、結果的には、研究内容に含めて発表することをやめ、割愛することになった。このことは、児童会活動が、特別教育活動の全体計画と表裏の関係にあって、分類することができないものであることを否定するものではない。

さて、研究の進展状況であるが、校内研究とはちがって、部員は各区の熱心なリーダー格であることとどうじに、各区の実情を背景とする論説を調節することは、なかなか容易なことではなかった。それだけではなく、実は最初のおもわくとは逆に、何の味わいもない平凡で常識的な指導計画になってしまったような気がする。

また　時間の不足から　指導計画の全内容について立案検討することができなかった。たとえば「費用」の点についてなど、児童会活動の指導には欠くことのできない　要点の一つであろう。しかし　それにはふれることなく　中断の形をとったことは残念である。

最後に　児童会活動を支える諸問題の研究にふれることにする。これらの問題は、いろいろと実践してみてもなお疑問が残るということで、それらの疑問を解明するには　あまりにも大きな力と時間の不足を痛感した。したがって　問題を整理したぐらいの程度に終った。

1, ね　ら　い

(1) 児童が自発的に、自治的に、学校生活に関する諸問題をとりあげ、自主的に話し合って、解決できるように　方向づける。

(2) 学校内の仕事を自分達で、分担処理していくという意識を育てて、楽しい充実した学校生活を目ざす活動であるようにしむける。

(3) 児童　の話し合いの結果、必要に応じて種々の集会を　有機的に、計画的にもつように指導する。

2, 代表委員会

(1) 組　織

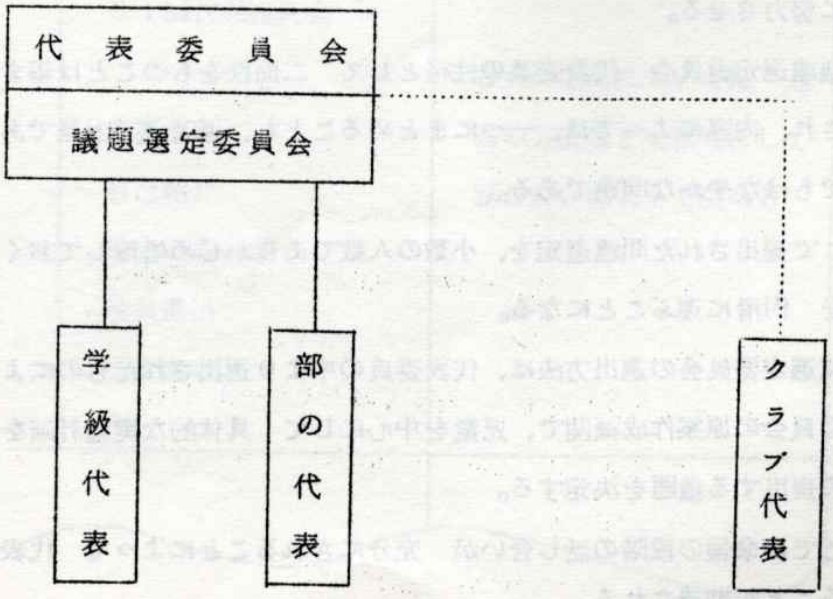
ア、学級代表……4年（3年）以上、各学級から男女、それぞれ、必要人数の学級代表

イ、部の代表……各部ごとに部代表

ウ、クラブの代表……必要に応じてクラブ代表も参加することがある。

これらの代表は　それぞれの組織集団を代表するわけであるが、必ずしも　学級委員とか、部長などをさすわけではなく、それぞれの組織内での話し合いによって　その都度代表者を誰にするかの話し合いをする。

例



(2) 運　営

ア、役員　議長一名、副議長二名　書記二名　男女を問わないで、児童の直接選挙によって選出する。ただ方法としては、子どもの自主的な運営や責任の問題を育成するには、選挙管理委員会制度を設立するのも一つの方法かと思われる。

イ、任期　多くの児童に代表委員会の経験をふませることは、教育的に考慮してたいへん望ましいことであるが、月一回程度しかもてない代表委員会であるので、その運営や議事の運びが、せっかく自分達のものになりかけたところで、次の代表委員にバトンを渡さねばならない。これでは充分な活動が望めない。そこで　任期としては二期にすることが望ましいのではないだろうか。

ウ、会の持ち方

㋑　代表委員会　代表委員会では、学校集団の成員である個々の児童が、学校生活上に持つ具体的な問題　学校　部　などの、集団としての成員である個々の児童が積極的に解決の必要を感じる問題を議題として取りあげる。

代表委員会の立場には二つの面がある。会議にのぞんで代表である以上、自分の学級の立場を主張することは勿論であるが、その問題の性質や性格によっては、単なる自分の学級的立場をはなれ、学校全体的な視野のもとに、問題を処理していくという態度が必要である。つまり自己の所属をはなれ、全校的な立場が、学校改善への処理、解決するという両面の性格が代表委員として確立されていなくてはならない。従って学級会の議題の性質によっては、常に学級的、全体的立場で解決される方向に指導すべきであろう。このように個々の学級、個々の児童一人ひとりにこの性格を充分理解させてその任務達成に努力させる。

㋺　議題選定委員会　代表委員の性格として　二面性をもつことは望ましいが、会議に提出され、内容によっては、一つにまとめることも、運営上　困難であり、事実　どの学校でもはなやかな問題である。

そこで提出された問題選定を、小数の人数であらかじめ処理しておくことは、代表委員会を　円滑に運ぶことになる。

議題選定委員会の選出方法は、代表委員の中より選出されたものによって構成され、代表委員会の原案作成機関で、児童を中心にして　具体的な実施計画をたて、代表委員会への提出する議題を決定する。

ここでの準備の段階の話し合いが　充分にされることによって　代表委員会の討議が深まることが期待される。

エ、指導者　代表委員会に於ては　直接、間接に学校経営の問題につながるものが多いので教師は　できるだけ、参加する機会を多くしたいが　分担の多い今日では原則として、最低２名以上確保したい。

会議に際しては、児童の自主的解決の主体性を　失わせないよう、適切な助言が必要である。

(3) 年間指導計画

- 代表委員会の年間指導計画は、教師が、年度当初に、学校行事、前年度の記録、学校の施設設備、指導者の数、地的条件、時期、季節の諸資料を参考にして、一年間のおおまかな活動の予想を、組立てる。
- 年間指導計画は、計画のためのものではなく、代表委員会の活動を指導していくために、常時活用できるもので、児童が全校的な視野に立って　みずからの　学校生活を、より豊かにしようとする活動を指導し、助長するためである。

巾広い弾力性に富んだものであるが、そのまま児童の活動計画や実施計画となるとは限らない。

例

学期	月	活動内容	指導上の留意点	備考
1	4	才１回代表委員会 ・座席決定 ・自己紹介 ・先生のあいさつ ・役員選出 ・役員あいさつ	・役員の選出については　過去の方法などを参考にして話し合いによって決める	
	5			

3, 部の活動

(1) 組織

ア 部活動の性格

・ 各部が、学校生活の維持発展に役立ち、無計画であったり、学校管理上の補助的な役割を児童に受けもたせる組織であってはならない。

・ 環境に応じ、児童にとって活動しやすい組織であること、画一的、形式的でなく 弾力性に富む組織であること。

イ 組織する方法

・ 部の数や種類については児童の希望をとり入れる。

・ 希望をもとに入部指導し、人数の調節をする。

・ 参加学年は高学年全員とする。

ウ 予想される部と活動例

放　送	・部の運営組織をつくる ・校内放送の企画、番組編成と放送　・番組に必要な取材活動 ・児童会の集会に必要な放送器具の設置と操作 ・活動の反省
掲　示	・部の運営組織をつくる ・与えられた掲示板の使い方を計画する ・代表委員会や各部より依頼されたものの掲示をする ・展示物や掲示物（写真、絵など）の収集活動 ・活動の反省
図　書	・部の運営組織をつくる ・図書の貸し出し計画をたて、貸し出し活動をする ・図書の利用状況調査や読書傾向などの調査と発表をする ・新刊または新規購入などの宣伝活動をする ・活動の反省

飼育園芸	・部の運営組織を作る ・飼育の計画と活動（動物やさかなどの飼育） ・学校園の利用計画を立て園芸活動をする ・学校園の苗作りや四季の動植物などの調査広報活動をする ・活動の反省
広　　報	・部の運営組織を作る ・児童会活動の動きを全校にしらせるための計画をたてて活動をする ・児童会行事　社会行事　学校行事などを知らせるための　計画をたてて活動をする ・活動の反省をする
保　　健	・部の運営組織をつくる ・校内の清潔美化を図るための計画をたてて　活動する ・保健のための調査と計画をたてる ・安全な生活を送るためのくふうをして全校に知らせる ・活動の反省

(2) 運　営

ア、役　員

部の代表として、部長、副部長など部の役員を互選する

イ、任　期

部の交代は二期制とするのがのぞましい

ウ、部の持ち方

常時活動は始業前、休み時間、放課後を当てる。ただし各部内の連絡は最低毎月一回は持つようにする

エ、予算について

前期、後期とも　はっきりした予算はもつべきである

オ、助言者

各部の指導助言は最低２名は当たるようにしたい

(3)　年間指導計画

その例 (1)

部　名	4　月	5　月
掲示部	・部の組織、部長、副部長、書記の選出 ・壁新聞の掲示場所を決める	・子供の日　憲法記念日中心の壁新聞を掲示する

その例 (2)

部　名	ね　ら　い	活動内容	集会室	指導者
掲示部	・掲示活動を行ないみんなの活動のようすをしらせる ・自治活動の啓蒙宣伝をする	・代表委員会、運営委員会、各部の状況を知らせる ・プリント壁新聞で連絡する		

(4) 各部の実施計画

・各部毎につごうのよい日誌式のもの

4　集　会　の　活　動

(1)　性　　格

代表委員会の決定にもとづいて、全校あるいは一学年以上の児童を対象としながら、児童会各組織からの報告、伝達、さらには、参加児童による話し合いやレクリエーションの各種の集会の活動を、児童の手をとおして、自発的、自治的に行なう活動とする。

(2)　内　　容

ア　学年的規模の集会活動……同一学年が集まつて行なう学年集会

・学年児童集会　・球技会

イ　全校的規模の集会活動

・児童朝会……各部の報告、代表委員会から、クラブ活動の報告

・新入生歓迎会・卒業生を送る会

・学年別、地域別球技大会

・クラブ発表会、夏休み研究発表会

(3)　組　　織

ア　学年全児童の参加によつて組織する ― 学年集会

イ　全校児童の参加によつて組織する　― 全校集会

ウ　（集会部をもつて、集会の計画運営にあたる組織も考えられる）

(4)　運　　営

ア　会の持ち方（計画）

①　集会の活動の年間における予定は、年間指導計画の中に立てられているが、その他にも、その時その時の、児童の意志の反映によつて変更したり、新しい集会を計画するなど、弾力のある活動にしている。

②　実施計画は、学級会または各部から提案されたり、特別な小委員会を組織して、そこで原案作成する場合もあるが、およそ次のような手順によつて実施している。

・議題選定委員会で、球技会の特別委員を、4年以上の各組より一名ずつ選出することにまとまる。

・特別委員会を作つて、原案を作成する。

種目、係、時間、準備、プログラムの編成などについて

・代表委員会で話し合い決定する

イ　会の運営

①　児童朝会を行なう場合には、学校行事等としての朝会を、必要に応じて児童朝会に切りかえることにする。

②　集会は、児童の自発的、自治的な運営にまかされるが、児童の負担過重に注意する。

③　会の運営、計画について、反省する必要から、その活動について記録を残すこと。

ウ　指　導　者

集会が児童の自発的、自治的な活動であるということから、ややもすると、教師が消極的になつたり、集会に参加することすら期待できなくなる。このような傾向をよく認識して、教師側の指導役割などを決定しておくようにする。

特に、細案の決定については、代表委員会には、低学年児童の参加がないので、担任教師の参加が、期待されてくる。

また、実施計画作成にあたつては、指導計画の立場から指導しなければならないようなもの、たとえば、期日、時間の長さなどについて明らかにしておく。

(5)　年間計画例

集　会　の　計　画				
月　日	集会の内容	指導上の留意事項	時間司会その他	指導資料・記録

(6)　時間の取り方

全校的規模の集会といつても、一年から六年までの全児童が参加しない集会の場合もあるので、各学年とも実施時間に差がある。

集会の活動に要する時間は、単独にあるわけではなく、それらは、特別教育活動の時間

の中にある。また、児童会活動の時間として考えられなければならない。したがつて、集会の時間が多くなれば部の活動の時間が少くなるというわけであり、もしそれらをクラブ活動の時間に実施したとすれば、各クラブの活動時間が少くなるわけである。

そこで、高学年の集会活動の時間を１０時間～１２時間とおさえた。

5　その他の諸問題

A、週番の活動と特別教育活動との問題

ここで述べる週番の活動とは、普通多くの学校で行われている、児童の週番の活動をさすものである。その活動の内容は、主として、生活目標を決めたり、実践の中心になつたり、児童の看護や管理にあたることなどのようである。そこで、これらと、特別教育活動とが、どのような関係になつているかを考えることにする。

(1)　生活目標を決めたり、実践の中心になることと、特活のねらいとの関連

生活目標が子どもたちで話し合わされ、自治的な実践の活動として取り上げられることは、自発的・自治的な活動を育てる意味で、理論的には一応うなずけるのであるが、次のような点で問題が残るように思われる。

(ア)　生活目標を代表委員会や週番で話し合つて解決している場合の問題点

生活目標の決め方には、だいたい２通りの方法が考えられる。一つは、学級会活動の話し合い活動で、月目標を決めて、それをもとにして代表委員会で話し合う方法である。他の一つは、週番や生活部で目標を決めて、代表委員会で決定する方法である。これらには、次のような問題を含んでいることが多い。

- 学級の話し合い活動や、代表委員会で、生活目標に多くの時間をかけすぎる
- 学級会が代表委員会の下うけのような活動になつて、学級会活動が圧迫をうける。
- マンネリズム化の傾向をたどり、学級会や代表委員会の活動が消極的になりやすい。
- 現実の問題性を離れて、目標のための目標作りに苦労していることになる。

(イ)　週番の活動に対する児童の態度

週番の児童の活動状態を見ると、高圧的、命令的児童が多く、自治的な活動とは思われない。むしろ、反発・非協力的な気持を持つて、週番をながめている場合が多いようである。そこには、望ましい建設的な意欲はあまり感じられない。

(ウ) 看護と管理面

児童の健康管理や安全指導は、教育基本法や学校教育法にも示されているように、教師の責任においてなされる性格のものである。しかし、学校や地域の事情により、教師だけではじゆうぶんではない場合も予想されるので、そのような場合には、教師の補助としての週番、特別教育活動と全く切り離した活動として存在しても、やむをえないと思う。このような場合には、児童の週番の仕事の内容を一つか二つに限定した活動となろう。

(2) 教師の構えと週番の廃止

児童の週番活動は、望ましい特別教育活動の発展を予想する場合、一つの障害となるという声が多く、この際、廃止しようとする傾向にあると思われる。しかし、現実の場合、各学級には、週番廃止に伴う諸問題の整理がなされていないままに、週番廃止に踏切ろうとしている。これでは、問題は解決されていないのであつて、学校生活のきまりの指導はどうなつていくのか、学校生活上における問題は、どこで誰が処理するのかなど、すみずみまで認識する必要がある。したがつて、週番を廃止すること自体に教育的な意義があると考えるのは早計であろう。

6 部の活動と係りの活動

部の活動とは、児童会活動の部活動を意味し、係りの活動とは、学級会活動のそれをさすものである。ところが、両者については、いろいろ問題が見うけられるので、それらについてのべてみたいと思うのである。

(1) 部の活動と係りの活動の関連上の問題点

児童会活動の部活動と学級の係りの活動を、同数にし、また、名称までも統一しているのがみうけられるが、それについては、次のようなことが考えられる。

ア、高学年では、学級と学校が系統化されるが、低学年、中学年では、無理である。

イ、系統化する前に、部活動の種類や数を決める必要がある。どうように、学級でも、学級独自の係りの種類を決めたり、数を決める必要がある。

ウ、本質を追求していくより、便利主義におちいりやすい。

(2) 部や係りの種類の決め方

部の種類の決め方には、次のような方法があり、それぞれ問題点をはらんでいる。

ア、部や係りを教師が決める場合

部や係りの種類は教師が決める方が早道である。しかし、教師が決めたのでは、子どもたちに、自分たちの学校や学級の諸問題について、考える機会を失いやすい。

イ、子どもたちだけで部や係りを決める場合

自発的、自治的活動であるが、子どもたちだけで決めることは問題である。子どもたちには考えられる限界があり、学校・学級経営とも関連があるので、無理であろう。

ウ、望ましい部や係りの種類の決め方

教師が決める場合も、子どもたちで決める場合もともに一方的な決め方で、おたがいのはいるよちがない。特別教育活動のねらいが自発的・自治的活動にあるので、子どもの話し合いをもとにして、教師が、指導・助言して、種類を決めるようにしたいものである。

(3) 部の活動と当番活動

給食は、当番活動か、部活動に属した方がよいのかという疑問がある。そこで、当番活動と部活動について、それぞれその違いをあきらかにしてみたいと思う。

ア、当番活動の性格

当番活動は、清掃のように、ある学年からは、いやおうなしに、やらなければならないようなものをいうのであつて、次のような性格がある。

- 学級や学年の全員が経験する必要のあるもの
- 創意工夫のよ地が少ないもの
- 子どもの負担過重にならないもの

イ、部の活動の性格

当番活動と区別するならば、次のようなことが考えられる。

- 自発的・自治的活動であること
- 学級や学年の全員がかならずしも経験しないでもすむもの
- 創意工夫のよ地がそうとうにあるもの
- 子どもたちの負担にならない、自治活動の限界内のものであること

ウ、具体例についての考察

当番活動や部の活動の性格を考えながら、具体例についてのべてみることにする。

- 望ましい部活動

新聞部を例にとることにする。新聞の編成や発行が主な活動であるが、このことは、

子どもたちが相談しあつて、創意工夫によつて十分活動できる部であろう。

○　条件つき部の活動

これは、部の活動か当番活動かで問題になる部である。たとえば、給食部がそうである。給食部も献立やお手伝いだけであつたら、あまり意味はないであろう。しかし、学校生活の維持や向上発展のためになるような指導の方法や活動が考えられるならば、自発的・自活動として認めてもよいであろう。

○　望ましくない部

望ましくない部とは、部活動の性格を全く無視した部である、たとえば、消防クラブのように、消防署のほうから組織を依頼されて、学校が協力的につくつた部などである。この場合はあきらかに、主体が消防署にあつて、子どもたちにないからである。

Ⅲ　クラブ活動の指導計画

クラブ活動
研究グループ

―とくに組織運営上の諸問題―

1　主題設定の理由

特別教育活動は、児童の自発的、自治的な活動を通して行なわれるのであるから、その指導計画は、教科、道徳の指導計画とは、性格を異にしている。また、特別教育活動には、組織された内容系列がなく、教科書のように整つた教材がない。学校の施設や学校組織などを考えたうえで、自分の学校に即応した指導計画をたてなければならない。また、教師と児童がともに協力して具体的な計画、すなわち、実施計画も作らなければならない。

過大な授業時数を受け持ち、学校、学級の事務に繁忙をきわめ、その荷重が現場教師の特別教育活動に対する活動意欲を失なわせ、指導計画をたてたり、実施計画を児童とともにたてることをしないで無計画に近い活動を行なつている学校が多いのではないだろうか。

以上が本年度、都特活で大テーマに「指導計画と実施計画」をとりあげた、およその理由であると思う。この研究を進めることによつて、各学校の指導に役立ち、都の特別教育活動の健全な育成に少しでも役だてば幸である。

特別教育活動は、教育課程研究集会を契機に、各学校の自主的研究と相まつて、かなりの効果を挙げている。しかし、教育課程研究集会でクラブ活動をとりあげるのは、来年度であるので学級会、児童会の研究に比べ研究の遅れが目だつように思う。もちろん、実験学校、研究指定校、自主研究校など一部の学校では、高度の活動が行なわれているが、一般の学校ではクラブ活動に対する関心や意欲が乏しく、活動も低調ではないかと思われる。都特活においても、クラブ活動専門部会の出席者が、学級会、児童会に比べ少ないことも、こうしたことが反映しているのではないだろうか。

クラブ活動研究部会では、大テーマ「指導計画と実施計画」にとり組むにあたつて、高度の理論、実践の研究でなく、一般学校でむりなく活動できる方法の研究をめざした。

まずクラブ活動の現状を把握し、活動を阻害する諸条件をいかにしたら克服できるか検討し、どのように指導計画や実施計画をたてたらよいか研究しようとした。

2　クラブ活動の諸問題

戦後学校教育は、経験主義によつて、問題解決学習が支配的であつた。この考え方による

と、社会性や自主性などの社会的態度が重視された。とくに自由研究（後に教科以外の活動になった）は、児童の自発学習や自治活動を中心にしていたのであるから、その教育的価値が高く評価された。

教育課程が改訂されると、教科以外の活動は、特別教育活動となつて一領域として独立し、クラブ活動は、その一つの活動に位置づけられた。

最近の社会では、生産性の向上がさけばれ、教育界では、基礎学力主義が支配的になつて、そこから問題解決学習に対抗する系統学習が生まれた。この考え方では、科学的な客観的な知識の定着をめざし、知力がつけば態度も養われるとしている。

また、東京オリンピックを契機に世界的な眼が開かれ、日本人としての自覚などの問題が戦後教育の反省として、社会的、政治に学校教育に対する要請となつた。

- 基礎学力の充実
- 理科教育の振興
- 道徳教育の改善（日常の基本的行動様式の指導、愛国心の指導、人間像の確立）
- 強い体力と運動能力の開発

加えて教育投資の風潮は、進学受験のためのテスト教育が盛んになり、即効的な効果を期待して教師中心の教えこむ学習が多くとられるようになつているといわれている。しかし、こうした傾向に対しても反省され、「児童の自発性を生かした教科学習」などの研究発表が多くなつてきたようである。

クラブ活動は、教育課程の中で最も児童が主体的に、自発的な学習を行なうことができる活動である。教科学習などをより効果的に指導するには、児童の自発性、自主性を生かす指導が大切である。そのためにもクラブ活動を盛んにすることが、教科学習を盛んにするのに大いに役だつということは、クラブ活動に熱意を示さない教師も考え、クラブ活動の教育的価値を認めている。

教育的価値があつても教師の意欲が無くては、活動が盛んにならない。学校行事等、ＰＴＡなどのために欠時が必要になると、クラブ活動がつぶされる。そして教科指導の時間は確保されていく。教師にしてみれば、指導すべき内容が系統的に組織されていないうえに教科書もないクラブ活動は、何をしてよいかわからない。なるべくつぶれてほしいと考える。なかには、自分の希望しないクラブに機械的に配当されたのでは、指導意欲もわかないという。小学校教師は、教科専門でないから教師の関心も学校によつては、片よつてしまうからであろう。さらに困るのは、クラブ活動に時間規定がないことである。

教師の意欲がなくなれば、児童の意欲もなくなる。早く帰りたい、学習じゆくに遅れてしまうなどということになる。さらに父母にしてみれば、クラブ活動などよりは、教科の勉強をしつかりやつてほしいということになる。

このように特別教育活動とくにクラブ活動を阻害する各種の事情を調査の結果に基づいて考察する。

(1) 教師の回答によるクラブ活動の問題点

表1. 問題点の所在

問題点 / 区名	時間に	教師に	児童に	設備に	費用に
江戸川区	44%	13%	12%	20%	11%
港　区	20%	28%	40%	8%	4%
杉並区	35%	20%	29%	10%	6%
三区平均	33%	20%	27%	13%	7%

㊟ 1. 調査人員

①江戸川区　9校

クラブ担当者　86名

②港区　22校

クラブ担当者各校1名

③杉並区　41校

クラブ担当者各校1名

○杉並区は、昭和34年度調査

表1 は、時間、教師、児童等に分けたが、互に関連しているので、分離はむずかしいが回答の傾向によつて分類した。以下その内容を列記する。

① 時間がとれないが一番多い

イ 行事等およびPTA活動、持ち込み行事、校内研修などでクラブ活動をつぶすことが多い。　ロ 隔週では、継続的な活動ができない。　ハ 45分では、時間が短かく活動が終らない。

② 教師の意欲が足りない。

イ 教師をクラブに配当するとき、希望しないクラブに機械的に配当されて意欲がわかない、指導力がない。　ロ、年間指導計画がないので、指導がその場しのぎになる。ハ、児童に対し過重な学習である。　ニ、いそがしくて研究できないので、クラブの目的がわからない。　ホ、熱意がわかない。

③ 児童に問題がある。

イ、児童が意欲的に活動しようとしない。　ロ、希望がかたよつてクラブの構成に困る。　ハ、5、6年生がいつしよでは、能力差がありすぎる。　ニ、能力の低い子どもの処置に困る。　ホ、児童の負担が大きすぎる。　ヘ、準備をしてこない児童が多い。

④　設備、施設に問題がある

イ、児童の希望する活動の用具が不足している。　ロ、校庭が狭すぎる。

⑤　費用に問題がある。

イ、公費、ＰＴＡ会費、児童負担のどれにしてよいかわからない。　ロ、金がかかりすぎる。　ハ、一部のクラブばかりが予算をつかう。　ニ、予算をたててもそのとおりつかえない。

(2)　児童の回答から見たクラブ活動の問題点

楽しかつた	５２７名	５５%
普　通	２６４名	２８%
楽しくなかつた	１６１名	１７%

㊟　調査対象

江戸川区９校、５・６年児童　９５２名

「クラブ活動をしてみて　楽しかつたですか」の回答である。

表２　によると、クラブ活動は、楽しい学習である。しかし、１７%の児童が楽しくないと回答している。この楽しくない理由を自由記入してもらい、問題点として考えた。

①　活動内容が問題である

イ、児童の意欲が生かされていない

㋑やりたいことをやらない（１６名）、㋺一つのものしかやらない（１１名）、㋩おもしろいことをやらない（８名）、㋥その他（２名）。

ロ、児童の能力を無視していないか

㋑うまくできない（５名）、㋺わからない、むずかしい、全然できない（６名）、㋩幼稚だ（１名）

②　時間が少ない

イ、回数が少ない、先生が休んでつぶれる（１８名）、ロ、はじめるのが遅い（６名）

③　クラブの組織の問題

イ、入部指導や、クラブ設置がわるい

㋑希望しないクラブに入れられた（１２名）　㋺他のクラブの方がおもしろい（２名）

ロ、人員の配分が悪い

㋑人員が多すぎる、少なすぎる（８名）　㋺自分の番がこない、練習できない（５名）

④　児童の意欲の問題

イ、おもしろくない（１３名）　ロ、早くかえりたい（１名）　ハ、その他（１名）

⑤　人間関係

イ、みんなでやらない、したくをしない（８名）　ロ、へんなことをいう、うるさい（７名）　ハ、６年生がいばる（４名）　ニ、先生がこわい（３名）

(3)　問題点のまとめ

江戸川区、港区の本年の調査と、杉並区の昭和３４年の調査を比較してみると、問題点はあまり変化していないように思う。

①　組織上の問題

イ、教師の興味、関心の偏向

小学校は、全科担任で専科担任でない。そのため各学校は、専攻科目や興味、関心を同じくする教師が集まる場合もある。一般に平均して分布しないのが普通であるから児童を主体にクラブを組織するとすぐ行きずまりがくる。

ロ、児童の興味、関心の偏向

小学校児童は、まだ、興味、関心の掘りさげが少なく、周囲に影響されたり、友だちに引きずられたりする。男子の運動、女子の家庭科系統クラブの集中もまた一つの傾向である。そこで、児童の希望を生かすことになると一部のクラブに集中する。また、教師を主体にクラブを組織すれば、児童の意欲は生かされない。

②　時間の問題

特別教育活動には、時間の規定がない。クラブ活動には、少なくても週１時間を固定したい。用具を忘れる、準備をしない、児童の意欲がないなどは、月１回とか隔週とかいうことによって起る。

学級会は、週１時間をとるのが望ましいとあるので、ほとんどの学校で固定し、時間を確保している。しかも、代表委員会、部活動は、性格上、学校運営や、管理に大きな役割を果すため、クラブ活動を隔週にとるものが多い。しかし、代表委員会は、部活動の部長、学級代表で構成されるのであるから、月１回とか、放課後（第７校時）など行

なうことが適当であろうし、部活動は、内容が各部とも異なり活動時間も一定でない、だからこれも月1回ぐらい部会を固定すればよい。こうして考えるとクラブ活動の毎週1回は可能であろう。

教科を偏重し、行事等を行なうにもクラブの時間を犠牲にするのは、教育の意欲にかけるためで、校内の教師団の共通理解をはからなければならない。

⑤ 運営上の問題

イ、計画の不備

(イ)内容が児童の能力以上であつては、興味が減退する。

(ロ) 児童のやりたいことをやらないというのは、実施計画のたて方が教師中心すぎる。

ロ、人間関係の調整をしなくてはならない。

(イ) 自分かつてで、開放感だけでは困る。

(ロ) 児童のリーダー、教師のあり方は、よく特別教育活動のめあてをふまえる必要がある。いばるリーダー、こわいだけの先生ではこまる。

3 クラブ活動の組織

(1) 組織の基本的態度

① クラブの数や種類は、児童の希望を優先し、教師は可能な限り希望にそえるよう努力する。

② 前年度の経験を生かし、反省や資料をともにし、無理のない組織にする。

③ 設備、施設は児童の能力に適応したものをよく検討し、改善、新設を計画する。

④ 学校、社会の特性を充分に配慮する。

(2) クラブ活動の参加学年

表3は杉並区の現状である。クラブは、中学以上の参加となつているが、実際には高学年だけが参加している。5・6年全員参加は71%(29校)であつて、17%(7校)は6年生でも希望参加になつている。

6年生だけ全員参加のA校では、5年生を除いた理由を、人数が多すぎて個人的指導ができないからと説明している。クラブの数が9クラブ、児童数が140名、校長、教頭、養護教諭、事務職員を除き教師が21名である。そこで1クラブあたり、児童15名平均、教師2名から3名ということになり、たしかにきめ細かい指導ができることになる。しか

し、実際は、クラブ１名の指導になり、あとの教師はいきぬきをしている。

表3　クラブ活動の組織編成はどうなつているか

学年		1年	2年	3年	4年	5年	6年
計（校）		41	41	41	41	41	41
参加する	小計			1	2	36	41
	全員					29	34
	希望			1	2	6	6
	代表					1	1
参加しない		41	41	40	39	5	0

㊟ 調査対象
杉並区４１校
３・４年の希望参加は音楽関係クラブで、技術的な指導を行なつている。（少年オーケストラ、少年合唱団的な色彩のこいものである）

杉並区全体としても、校長、教頭、養護を除いた教師全員がクラブに当れば、５・６年生全員参加しても、教師１に対し、児童１３になる。このようなことから考えると、５・６年全員参加にしても、充分個人指導ができるのであるから、要は教師集団のクラブ活動に対する意欲の問題となる。

(3)　クラブの数

表4　学校規模別クラブ設置数

クラブ数 / 学校規模	計	4以下	5～10	11～15	16以上
計	40	4	22	11	3
学年2学級編成	16	2	10	3	1
学年3学級編成	20	1	11	6	2
学年4学級編成	4	1	1	2	0

㊟ 調査対象
杉並区４１校
学校規模は人数で区分されているが、便宜的に学級編成に換算した。

表4　によると、校長、教頭、養護教諭、事務主事を除く他の教師が全員で指導に当れば、学校規模に関係なく15クラブぐらいまでは、設置ができる。一学級編成の学校のように規模が小さくなれば、児童も減るから、1クラブの人数が過小になる。したがつて中学年の参加もできることになる。

(4)　クラブの人数

教師ひとりあたりの児童数は、約13名とおさえることができる（5・6年全員参加）クラブの人員は、クラブの活動内容によつて人数も異なるが、5年、6年、男、女各2名計8名あれば学年、姓別を一応含むことができる。クラブの性格のうえから最低8名ていどと考えることもできよう。また、野球クラブなどは2チーム、審判などを加えて、24名ていど必要であろう。理科のように実験などによる危険のあるものは、施設なども考え30名以下、しかも教師2名が必要になると思われる。しかし、これは計算上のものであつて、野球クラブが10人であつても、試合をしたいということになれば、他の球技クラブなどと合同して行なうこともできるので決定的条件ではない。単なる目やすに過ぎず、実際には児童の希望を生かすことがより重要である。

表5は江戸川区の調査によるクラブの人数の分布である。

表5　クラブの人数

クラブの人数	5～10	11～15	16～20	21～25	26～30	30以上
クラブ数	5	26	17	15	4	3

①　およそ、表5から見ても11名から25名ぐらいのクラブ員になつている。

②　30名をこす場合、危険を伴う活動には教師2名を配当したほうがよい。

③　最低8名ぐらいになつている。

④　クラブ員数が多い少ないがあつても、必要に応じ分離したり、合同したりすればよい。

(5)　クラブの種類

クラブの名称はできるだけ教科名をさけないと、クラブ活動と教科学習を混同するおそれがある。つぎにあげる名称は各学校で活動内容をあらわすような具体的名称がつけられたものを集計のつごうで統一した。

（校……杉並区のクラブ設置学校数、　　名……江戸川区９校の児童入部希望数）

① 体育運動系統クラブ

1	体育運動一般	17校	15名
2	陸上競技	7	46
3	体　育	2	10
4	器械体操	5	11
5	マット	1	11
	小計	32	93

② 球技系統クラブ

1	球技一般	8	3
2	卓　球	10	34
3	バトミントン	1	29
4	野　球	3	34
5	バレーボール	1	36
6	バスケットボール	2	31
7	ソフトボール	4	15
8	ドッチボール	1	27
9	サッカー	1	7
	小計	31	216

③ その他の運動

1	リズム	8	1
2	フオークダンス	1	9
	小計	9	10
	合計	72	319

④ 社会系統クラブ

1	社　会	9	5
2	地　理	2	8
3	歴　史	2	14
4	郷土研究	3	1
5	新　聞	3校	4名
	合計	19	32

⑤ 理科系統クラブ

1	理科全般	21	19
2	科学工作	1	18
3	科学実験	7	
4	化　学	5	17
5	物　理	3	2
6	電　気	2	9
7	写　真	5	5
8	生　物	4	6
9	植　物	2	1
10	園　芸	3	4
11	飼　育	1	3
12	栽　培	1	0
13	気　象	1	1
	合計	56	85

⑥ 文芸系統クラブ

1	文　芸	3	3
2	作　文	3	1
3	読　書	21	11
4	演　劇	15	6
5	放送劇	3	10
6	人形劇	1	4
7	放　送	3	13
	合計	49	47

⑦ 家庭系統クラブ

1	家庭全般	16	34

2	手　芸	25校	54名
3	調　理	2	0
4	生　花	1	9
	合計	44	102

⑧ 音楽系統クラブ

1	音　楽	14	36
2	声　楽	4	7
3	コーラス	6	5
4	器　楽	17	9
5	ヴアイオリン	2	7
6	ハーモニカ	1	1
7	合　奏	5	3
8	鼓　笛	3	16
	合計	52	84

⑨ 美術、図工系統クラブ

1	美術図工	18校	29名
2	図　画	16	14
3	書　道	29	16
4	ペン習字	1	16
5	工　作	7	19
6	模型工作	3	55
	合計	74	149

⑩ そ の 他

1	珠　算	9	42
2	ペンフレンド	1	5
3	その他	5	32
	合計	15	74

これを系統別に集計したものを多い順にならべると、

○ 杉並区の設置クラブ

1	図工系統	74校
2	体育系統	72校
3	理科系統	56校
4	音楽系統	52校
5	文芸系統	49校
6	家庭系統	44校
7	社会系統	19校

○ 江戸川区児童の希望クラブ

1	体育系統	319名	38%
2	図工系統	149名	18%
3	家庭系統	102名	13%
4	理科系統	85名	11%
5	音楽系統	84名	10%
6	文芸系統	47名	6%
7	社会系統	32名	4%

杉並区の設置クラブと江戸川区9校の希望調査は、傾向としては近いが、家庭が杉並の6位に対し、江戸川は3位である。杉並の図工、体育がほとんど同じなのに、江戸川は体育が図工の2倍になつている。クラブ名が、学校によつて非常に異なると同様、児童の希望は学校によつてかなり違うと思う。

体育は、江戸川区で38%も占めているが、広い場所を必要をする体育系統クラブを

児童の希望のままに設置することはむずかしい。

4　時間のとり方

表6　杉並区、港区の時間のとり方

		計	隔週	毎週	その他
杉並区	時間割にくむ	38	13	23	2
	時間割にくまない	3	1	2	
	杉並区の合計	41	14	25	2
港区の合計		21	1	16	4

㊟ 隔週は　隔週1時間
毎週は　毎週1時間
その他は　月1時間
月3時間
（時間は　校時）

表7　杉並区の曜日、校時別分布

	計	月	火	水	木	金
計	23	5	2	5	7	4
第5校時	8			4		4
第6校時	14	5	2	1	6	
第7校時	1				1	

㊟ 杉並区　41校中　時間割にくんである学校23校の調査である。
時間のとれない学校は　7校時を用いることも一方法であるが、小学校の児童の体力から見ては　望ましくないが、方法としては考えられる。

○ 望ましい時間のとり方

① 毎週固定時間として1校時をとりたい。杉並区は41校中23校（56％）、港区は21校中19校（90％）がとつている。（表6）

② 学校の授業時数、行事計画をみて欠時の少い日曜を選ぶ。特別教育活動は、高学年または、中学年の活動に全校教師があたるので、どうしても午後の最後の時間になり、行事などで欠時間になりやすい。（表7）

杉並区は、校長会の申し合せにより、水曜は職員会、金曜は学年会、この日はなるべく校外の行事を組まないことにしている。また、土曜の4校時もつぶれない時間である。こうした曜日にクラブ活動を組むことが必要である。

5 運　営

(1) 入部指導

クラブ活動の問題点であげられたものの多くは、入部指導によつて解決できる。またその間に教師の意識を高め、共通の理解をする機会にもなり、以後の活動がより円滑に行なわれるのであるから、入部指導の計画は入念にたてられなければならない。

江戸川区の調査では、入部指導を行なつたもの70名（81％）行なわないもの、無答を合せ16名（19％）である。入部指導を行なつたというものにも内容の精粗いろいろである。竹町小学校の入部指導を例にあげ参考にする。

① 入部以前の指導

イ、各クラブの活動状況紹介……全校集会、朝礼などの時間を活用する。掲示する。

ロ、クラブ発表会、展示会　……児童会活動の一環としての集会をとおして。

ハ、　クラブの案内

㋑ 来年度の新入部者（4年生）を引卒して参観する。

㋺ 三学期など、ある期間をきめて、オブザーバーとして参加させる。

② クラブの選択指導（クラブ決定までの手順）

イ、希望調査……自由記入

ロ、クラブ数の決定……教師の希望調査、分担調整、活動内容の検討

ハ、クラブ活動の案内……見学、参加、活動内容（やつていること）の説明

ニ、入部申しこみ……第一希望、第二希望

ホ、希望者の調整……むりな調整をしない、できるだけ第一希望のとおりとし、集中したクラブはそのまま発足し、実施計画の段階で班にわかれて活動する。

③ 留意事項

イ、教師の指導体制をととのえる

㋑ 全員が参加する。教師の特技によつて所属するという考えをすてる。教師が深い知識、技能がなくても、児童の相談にのり研究や活動の指導はできる。自分の好きなクラブでないと指導する意欲がわかないというのでは、教師の資格に欠ける。

㋺ 児童の希望が偏向しても、多すぎるものは班をふやし、少なすぎるものは合同し、教師も機械的配分にせず、内容により、危険なものは児童数に比べては多く配分する。

ロ、児童の興味・関心の持続と所属の変更

㋑ 児童は、周囲の刺激に影響され易く、友だちにひかれて入部したがおもしろくない。そこで変更したいという。興味を失つたクラブにいつまでもいれておいては、意欲は失なわれるばかりである。

㋺ クラブ活動は、興味、関心を望ましい方向に価値づけていかなければならない。すぐいやになつて、ほかのクラブがよく見えてくるようではならない。

㋩ 一年間にわずか３５回以下であろう。どうしてもいけないものの理由が明確につかめるものは変更させる。

(2) 指導運営の留意点

① 児童の主体性ができるだけ尊重されなければならない。

② 児童の興味や関心を望ましい方向に価値づけていくためのよい助言になること。

③ 個人差に応ずる指導でなければならない。

④ 個々の児童の向上発展とともに、クラブ自体の向上発展を目ざす計画的な組織運営がなされなければならない。

⑤ 学級生活を基礎とし、クラブ活動と相互依存している。そこで学級生活を充実発展させるものでなくてはならない

(3) 各クラブの計画と運営

① 実験クラブ年間計画 ── ３８年度前期（教師のたておおまかなわくぐみ）

目　標	○ 実験について取材し、計画し、楽しみながら実施する。 ○ 自主的活動を通して、社会性をつちかい、集団活動への協力参加の態度を養う。
予想される活動	○ 活動について話し合い、計画をたてる。 ○ 実験器具取扱いの基本的練習をする。　○ 物理実験をする。 ○ 化学実験をする。　○ その他の実験をする。
留意事項	○ 作品の展示、鑑賞、発表会をする。 ○ 危険を伴なう実験は細心の注意をはらい指導する。 ○ 実験器具の取り扱い、あとかたづけなどにもグループの協力を活用する。 ○ 活動の記録を児童もとるようにし、絶えず計画と対照する。
評論の観点	○ 協力して、くふうしながら実験できたか。 ○ グループで実験の用具や薬品の準備ができるようになつたか。 ○ あとしまつがよくできたか。
備　考	○ 経費　公費2,０００円、内訳：台代５枚１００円、もぞう紙２００円 マジツク３００円、カエル、フナ約３００円、スンプセット５００円、ヤシ油５００円、氷１００円

② 音楽クラブ実施計画例―３８年度前期（主として児童がたてる計画）

活動題材がきまるまでの経過	教師の助言、指示
○ 自己紹介、部長、副部長、書記をきめる。 ○ 合唱にするか、合奏にするか話しあう。 前期……合奏 ○ 曲目選定　２０曲ぐらいを候補にあげて話し合う。	△ パートの責任者をきめることに気づかなかつたので責任者をきめるよう指示した。

一児童がやりたい曲のレコードを持参したので、全員で聞き、きめる。 ○ パートの希望は話し合いで、めいめい自分の希望のパートを選ぶ。	
実 施 計 画	教師の助言・指示
合奏ドナウのさざなみ 1次（2時間）スコアを見ながらレコードを聞く、自分のパートをよくしらべる。わからないところをよく聞く。 2次（8時間）自分で読譜し、自分でパートを練習しパートで合わせてから全体で合奏する。 3次（2時間）全曲を通じて総指揮者をきめて練習する。 4次（1時間）先生に指導していただきわるいところをなおす。	○ 曲の区切りがあるから形式を調べて区切るようにと助言した。 △ クラブ以外の時間でも練習するように指示した。（オルガン室も自由に開放することをやくそくした。）

③ 実施計画作成の手順

実施計画作成の基本的なことがらは

イ 活動内容の選定と時間配当をする。

ロ 活動内容を具体化する。

ハ 学校行事等との関連を考える。

㋑ 年間を通しての活動したいことを話し合う（部長を中心として）

㋺ 運営はどうするか（個々か、グループか、全員か）

㋩ 学校行事等との関連（例えば、科学工作クラブで運動会の種目としていれ、飛行機を飛ばせたいと考えた場合は、その行事の行なわれる時に、その題材ができあがるような配当と計画をたてる。）

④ 教師の記録と児童の記録

記録はつぎの活動への準備、反省の資料、助言、指示等の方向を予測するための役割

を果すもので、具体的な記録は、積み重ねた指導をしていくための重要な手がかりとなるものである。

児童の記録例　　わたしの活動記録（３８年度）

	科学クラブ	5年2組　氏名　○○○○	
月日	やったこと	反省	先生から
5・20	鉱石ラジオ製作の計画かかる費用、材料の発表、グループを5つにわけた。	発表は部品を持ってきて説明してくれた人がいたのでよくわかった。2～3人きいていない人がいた。	○グループのわけ方
5・27	鉱石ラジオの製作	○○君は班長さんにハンダづけを	○用具の置き

教師の記録（個人の観察）

氏名	月日	場面	できたこと
○○○○	5・27	鉱石ラジオ第1日目	グループの面倒がなかなかよい。5年生児童にこまかく説明してやつていた。
○○○○	6・3	鉱石ラジオ第2日目	班の先生といわれて、よく活動していた。

○　自発性を尊重するためには、教師の指導が問題になる。指導性が強すぎでもいけないし、適切な指示や助言を、全体の計画の中でよく考えて行なうことが必要である。

6 まとめ

教師が指摘しているクラブ不振の理由は、教師集団の熱意の不足が原因である。そこで、教師集団の共通理解を高めるようにしなければならないが、教科は深く専攻している教師が多いのに、クラブ活動には専門家がいない。しかし、学級経営にはどの教師も力を注いでいるのであるから、この方面からの開拓の余地もあるのではないか。

児童のクラブ活動に対する関心は、教科と比較できないほど高い、このような自発性や興味を組織づくることは、入部指導によつて大半が成功するといつて過言でない。

この研究を行なつている間に、いろいろな問題がでてきた。とくに教育語として、安易に無意識に使用していた、自発性、自主性、自律、自治性、興味、関心などのことばが、その意味するものは、何か。といわれると説明できない。また、クラブ活動では、どのようにしたら自発性を生かすことになるかなど具体的実践例としてあげられるものが意外にでてこない。

なお、設備、施設、予算や経費の問題など充分に検討することができなかつた。

実態調査は（江戸川区）大場宗一、池田達、（港区）堀井太郎、（杉並区）教育庁調査資料　済美研究所研究物　宮坂岩男、　実践記録は（台東区）高橋元子

以上を資料として研究を進めた。しかし、都という広域から集まつてくるのであるから、思うように顔がそろわない。したがつてこの研究もまだ始めたばかりである。今後の研究の成果を期待する。

（文責　宮坂岩男）

一年間の研究をふり返つて

専門部長　世田谷区立山崎小学校教頭　奥　田　　勉

最近、特活の研究会も盛んにもたれているが、まだ、実践の日も浅く、他教科に比し、多くの問題をかゝえ、その解決は今後の課題で実践の裏づけある実証的研究に期待される。

東京都小学校特別教育研究会は昭和３７年１２月に発足した。本年で満２年を経たわけであるが、３８年度は、組織づくりや、活動方向の模索に終わり、本年、初めて実質的研究にはいつた次第である。この間、組織・運営の問題、研究テーマなど、う余曲折、遅々たる歩みの中で、その方向を求めてきた。

特に、活動の中核をなす、専門部（研究）の部員確保（研究日に出席困難、出席メンバーが、その都度、変わるなど）は、組織的な研究を実質的に推進するため、最も苦労した一つであつた。全都の会であり、会員の地域的分布は広く、多くの固定した研究メンバーが、毎月、何回かの定期的研究日に参加することの困難さを、つくづく味わつたものである。

しかし、会員の熱意と協力により、メンバーも定着し、２、３学期は充実した期間であつたと思う。このように、悩みと、試行錯誤をくり返しながらも、どうやら、ここに、研究発表の日を迎えるにいたり、さゝやかな研究物ではあるが、生み出し得たことをうれしく思う。

これは、ひとえに、会員の努力はもちろん、この会のため、多くの皆さんが、陰に陽に、ご指導、ご支援の賜と感謝にたえません。

特活の現状は、一部関心のある方以外は、なかなか日常実践の深まりはもちろん、研究不充分で、年間指導計画などのない学校も考えられる。

今後、さらに広く、多くの会員の研究参加を得て、４０年度は、３９年度の研究を基礎に、充実した、魅力（現場ではすぐ役に立つものを目ざして）ある研究内容（年間指導計画、そのものずばりの作成）などに、とりくみたいものと思つている。

大方の、忌憚のないご批正、ご指導を賜わらば幸甚に思います。